

託された想いを未来へ…

常陸大宮地域における考古学の黎明期を首藤保之助しゅどうやすのすけの日記をたどりながら市史研究第4号に「石買ヒノ爺老」—首藤保之助による常陸大宮市域の考古遺物の採集記録—として鈴木素行、高村恵美両氏とともに報告しました。今回はその調査を通じて感じたことを記します。

およそ90年前、首藤は考古遺物を手に入れることを目的に各地を巡り、それを手に入れると創られた時代や作り手に思いを馳せつつ、タイムトリップした気分になりながら歩く、なんとも贅沢な旅をしています。この時、常陸大宮市域において採集した膨大な量の考古遺物が、日記とともに「阿武隈考古コレクション」として須賀川市立博物館に保管されているのには驚きました。日記からは首藤が単なる自己満足に浸るだけのコレクターではなく、将来、収集したものを資料として活用されることを望んでいた様子が見えてきます。今回の市史研究における調査報告は、この思いに、ちょっとだけ応えることができたのかもしれません。

また、須賀川市は50年前に資料の寄託をきっかけに博物館を設置し、寄託資料を「阿武隈考古コレクション」として10年ごとに公開しています。今後は資料の公開だけでなく、全国各地の収集地において歴史資料として活用できるよう研究を進めたい、とのことでした。首藤が託した「考古学的理解の啓蒙運動」「学者に対して、せめて正確



飯島 一生氏
考古部会協力員

にして豊富な資料を提供し、多少なりとも貢献したい」「資料の散逸を防ぎたい」という思いは、博物館によって実現されているのです。次回の資料公開時には、また3人で何らかの形で関われば…と考えています。

須賀川市を訪ねるたびに身近にある博物館の存在が羨ましく、博物館が存在する意義やその役割についても深く考えさせられた調査でした。

※私が博物館を退館しようとする中学生らしき生徒二人がビニール袋を下げて入館してきました。自宅近くで遺物を拾ったとのこと。品定めに来たのでしょうか。



▲石鏃(石の矢じり:伊勢畑地区だけでも500点ほどある)



▲石錘 (漁具のおもり:採取日、場所、首藤の記述がある)

■問い合わせ■

文化スポーツ課

文化振興グループ ☎52-1111(内線343)